

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

組織的な授業改善～国語における「指導と評価の一体化」の視点を踏まえた主体的・対話的で深い学びの実現～

(2) 研究のねらい

学びの深まりを生徒が自覚できるようにすること及び教師が指導改善を行いやすいようにすることをねらいとして、学習過程や思考の軌跡が記録される授業づくりを行った。「論理国語」については、思考ツールを用いて「考えを形成する力」を育成する授業を検討した。「文学国語」については、既存の短歌の配列を考えることを通して「構成を検討する力」を育成する授業を検討した。

2 実践事例

【事例1】

(1) 単元指導計画

ア 科目名：論理国語

イ 単元名：君たちはどう読書するか

ウ 単元の目標：

- (1) 新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができる。〔知識及び技能〕(3)ア
- (2) 人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)カ
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会と関わろうとする。「学びに向かう力、人間性等」

エ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めている。(3)ア)	①「読むこと」において、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から読書の意義と効用について自分の考えを深めている。(B(1)カ)	①読書の意義と効用について、自分の既存の知識及び経験や複数の文章を読んで得られた視点を基として、多様な論点や異なる価値観で述べられた文章について、多様な資料を相互に関連付けて主体的に考えたり、新たな観点で自分の考えを見つめて吟味したり、再構成したりして、自らの学習を粘り強く調整し考えを深めようとしている。

オ 単元の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	1	○単元の目標を知り、学習前アンケートに答えることで、自分の読書に対する見方・考え方を整理し、学習の見通しをもつ。	○			[知識・技能] ① 「記述の点検」 <u>学習シート</u> 及び <u>ポートフォリオ</u> ・単元の目標を知り、自分の

		○コミュニケーションゲームを通して、対象を捉えることの特徴を考えるとともに言葉がもつ性質について理解する。			読書に対する見方・考え方を整理し、学習の見通しを持っているかを確認する。 ・コミュニケーションゲームを通して、読書に対する新たな考えの構築に資する概念について理解しているかを確認する。
2	2	○ある映画に対して実際に投稿された複数のレビュー(感想)を、思考ツールを用いて分析し、特徴や傾向を把握する。 ○ある映画に対するレビュー(感想)が数多く投稿されている現状について考察をした記事を読み、その主張を基に作品解釈に対する考え方を読み取り、読書の意義と効用を考えるための視点とする。		○	[思考・判断・表現] ① 「記述の点検」 <u>学習シート及びポートフォリオ</u> ・1次1時で「読書に対する新たな考えの構築に資する概念」について考えたことを活用し、思考ツールを用いて実際に投稿されたレビュー(感想)の特徴や傾向をグループの中で検討した上でクラス全体に共有し、文章から読み取った事柄を読書の意義と効用を考えることに結び付けようとしているかを確認する。 ・記事を読んでその主張を基に作品解釈に対する考え方を読み取るとともに、自身の考えの形成のための視点の一つとし、それらを読書の意義と効用を考えることに結び付けようとしているかを確認する。 「行動の分析」 <u>学習活動における生徒の行動</u> ・グループワークについては、主旨を理解した上で学習活動を適切に行えているかを観察して適宜助言し、指導に生かす。
3	3	○ある文学作品に対する自身の解釈を振り返った上で、その文学作品についての論文を読み、その主張を手掛かりに読むことに対する考え方を読み取る。		○	[思考・判断・表現] ① 「記述の点検」 <u>学習シート及びポートフォリオ</u> ・論文に表れた主張を基に筆者の読むことに対する考え方を読み取るとともに、自身の考えの形成のための視点の一つとし、それらを読書の意義と効用を考えることに結び付けようとしているかを確認す

	4	○論文の中で示された読むことに対する考え方を図解することで理解を深め、これを踏まえて読書の意義と効用を考えるための視点とする。				る。
4	5	○ポートフォリオに記述したことを踏まえ、また、多様な資料を相互に関連付けながら「どう読書するか」に対する自分の考えを意見文としてまとめる。			○	<p>[主体的に学習に取り組む態度] ①</p> <p>「記述の点検」<u>ポートフォリオ及び意見文</u></p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を踏まえて、読書に対する自己の意見を形成することができているかを確認する。 ポートフォリオの記述を踏まえて、意見文を書くことができているかを確認する。 <p>※評価規準については、生徒に評価シートを配付して示すとともに、自己評価をさせることで主体的な学習につなげる。</p>

カ 授業実践例 (2時間目/5時間)

学習活動(指導上の留意点を含む)		評価の観点(評価方法)
1	前時の終わりで示した課題を確認し、本時の学習の見通しをもつ。(5分)	<p>[思考・判断・表現] ①</p> <p>「記述の点検」<u>学習シート及びポートフォリオ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 1次1時で「読書に対する新たな考えの構築に資する概念」について考えたことを活用できている。 実際に投稿されたレビュー(感想)の特徴や傾向をグループの中で合意形成を図りながら検討できている。 読み取った事柄を読書の意義と効用を考えることに結び付けて、自分の考えを深めている。
2	ある映画に対するレビュー(感想)を題材にグループワークをする。(15分) <ul style="list-style-type: none"> 分析シート(図1)を用いたグループワークについて、主旨と展開を説明する。 分析シートに提示されたレビュー(感想)を一読し、各自で考える。 各レビュー(感想)が、縦軸(肯定的⇄否定的)・横軸(主観的⇄客観的)のどの位置に当てはまるかをグループで検討する。 検討した結果から読み取れたことを話し合い、分析シート内に記述する。 話し合った内容をクラス全体に共有する。 分析・共有した内容を受けて考えたことをポートフォリオに記述する。 	

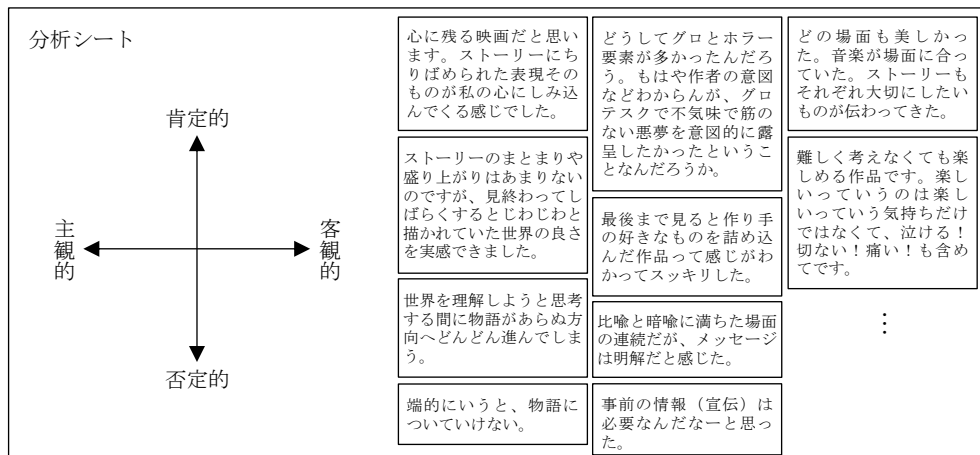


図1 分析シート

<p>3 ある映画について述べた記事を読んで内容を把握するとともに、そこに表れる作品解釈に対する考えを読み取る。(25分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアワークにより、学習シート(論文の中で示された筆者の読むことに対する考え方を模式的にまとめたもの)の空欄に当てはまる語句を考える。 ・スライドで内容を理解しながら学習シートの空欄に当てはまる語句を確認する。 ・読み取ったことから筆者の作品解釈に対する考え方を把握する。 ・ペアワークにより、記事を読んで考えたことをポートフォリオに記述する。 ・記事に表れる作品解釈に対する考え方の特徴について、何人かを指名して答えさせ、クラスで共有する。 <p>4 次時の学習の見通しをもつ(5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・記事を読んで筆者の主張を基に筆者の作品解釈に対する考え方を読み取れている。 ・読み取った内容を自身の考えの形成のための視点の一つとし、それらを読書の意義と効用を考えることに結び付けようとしている。
---	--

研究実施校：神奈川県立麻溝台高等学校(全日制)
 実施日：令和5年10月6日(金)
 授業担当者：近藤 充暁 教諭

(2) 「指導と評価の一体化」の視点を踏まえた主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導と評価のポイント

ア 指導と評価の一体化の視点について

本単元では、「どう読書するか」を中心的な問いとして設定した。これは、音読、速読、図書館で借りる、立ち読みで済ますなど具体的な方法を問うているのではなく、「読む」という行為自体を対象としている。このことを考えさせるために、アンケートを用いて生徒の考えを見取ること(表1)、対象を捉えるということの特徴や性質を理解させること、インターネット上に投稿されたレビュー(感想)を題材としてその特徴や傾向を分析させる(図1)こと、異なる価値観によって書かれた二つのテキスト(記事・論文)を読ませ、その「読む」価値観を捉えた上で比較・検討させることを活動として行った。そして、これらの活動を踏まえて「どう読書するか」について意見文にまとめることを学習課題とした。このように、「読む」という行為自体を概念化し、構造化し、最終的に生徒自身が「どう読書するか」という本単元の中心的な問いに向かえるように学習活動ごとに内容をポートフォリオにまとめさせ、振り返らせるという学習過程となるよう工夫した。

イ 主体的な学びについて

本単元の学習課題を追究するそれぞれの時間において、本時のねらいを確認する場面と学習を振り返る場面を設定するとともに、ポートフォリオによる振り返りを蓄積し、自分の学びや変容を自覚できるようにした。また、生徒自身が自分の学びや変容をメタ認知できるようにするために、ポートフォリオの記述を踏まえた意見文を書かせることで、単元全体における自分の学びを説明し評価する機会を設けた。

ウ 対話的な学びについて

対話的な学びを実現するためには、自分の考えをもつ手掛かりとなる視点を示すことが有効である。本単元では、「読むこと」において、学習シートとポートフォリオ(学習の記録)を活用することを、生徒が考えを形成する土台とした。また、生徒の考えの形成を促すために、分かったこと、感じたこと、さらに知りたいこと、疑問があることといった視点を示すとともに、異なる価値観で述べられた文章や多様な資料から読み取ったことを比較したり、選択したり、相互に関連付けたりして、言葉を手掛かりにして思考する方法を示した。さらに、これまで生徒自身が身に付けてきた知識や経験、方法を活用できるような問いかけをすることで、認識から思考へ向かう過程を構築できるように指導した。課題としては、認識から思考へ、思考から表現へ向かう過程において、思考を表現に置き換えるために語彙の量の多さや質の高さが必要だということである。この課題を解決するためには、日常的な語彙指導を充実させていくことが必要である。

エ 深い学びについて

生徒が自分の考えをより深めるためには、一人で考える場面と他者と対話する場を繰り返し経験して、自身と他者との考え方の差を知ることができるよう、学習過程や単元展開を工夫する必要がある。また、本単元における「どう読書するか」という中核的な問い自体が、単元終了後も生涯にわた

る問いとして残り続けるものである。

(3) 今後に向けて

本単元では、「読書の意義と効用」に対する考えの形成につなげるために、「主観」と「客観」という二つの観点を示した。「主観」と「客観」を観点として作品を解釈する「利点」や「欠点」を考えさせながら、コミュニケーションゲーム、レビューの分析、記事や論文のテキスト読解といった学習活動を行った。

「主観」と「客観」という概念を理解したことによって、生徒の見方・考え方がどのように変容したかを見取るとともに、生徒に自身の見方・考え方の変容を意識させるため、学習前と学習後に同じ質問項目を設定し、本校2学年の論理国語履修者359人を対象としてGoogle フォームを用いて「どう読書するか」に係るアンケートを行った。(表1)

表1 「どう読書するか」に係る学習前後のアンケート(有効回答数346)

アンケート項目	学習前	学習後
① 文章を正しく読むことが読書の目的であると考えている。	78.0%	78.6%
② 読書をする際に内容を理解できれば、自分の考えや感想をもつ必要はない。	22.0%	8.4%
③ 自分は文章の内容を正しくとらえようとしている。	76%	77.5%
④ 読書の際には、筆者の意図を考えようとしている。	34.4%	80.6%
⑤ 他人と同じ文章を読んだときに自分の解釈が他人とは違っても気にすることではない。	91.3%	89.3%
⑥ 他人が間違っただけの解釈をしていると思っても、自分は自分、他人は他人であるとしてあえて間違いを指摘したり正そうとしたりすることはしなくてよい。	87%	87.6%
⑦ 本の感想を他人と述べあったり共有したりすることは、本を読む上で必要なことではない。	33.5%	21.1%

※アンケートは、「そうだ」「そうではない」の2件法で行った。

表1の学習前・学習後の欄に「そうだ」の回答率を示した。

アンケートの結果を踏まえ、今後も、読書を通して自分の考えをもったり、読み取った内容を他者と共有したりする中で、新たな視点の発見や意見の深まりがあることの大切さ、つまり、本単元でいうところの「読書の効用」への意識付けと「どう読書するか」という姿勢の涵養に引き続き取り組んでいきたい。さらには、他者との対話を経ずとも、読書を通して筆者と対話することで自分の考えを深められるよう強く意識させていきたい。

【事例2】

(1) 単元指導計画

ア 科目名：文学国語

イ 単元名：読み手の関心を得られるアンソロジーの構成や展開を工夫してみよう。

ウ 単元の目標：

- (1) 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解できる。〔知識及び技能〕(1)ア
- (2) 読み手の関心を得られるよう、文章の構成や展開を工夫できる。〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)イ
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。「学びに向かう力、人間性等」

エ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。((1)ア)	①「書くこと」において、読み手の関心を得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。(A(1)イ)	①アンソロジーの構成や展開を工夫することを通して、「言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解すること」や「読み手の関心を得られるよう、文章の構成や展開を工夫するこ

		と」に向けた粘り強い取組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
--	--	--------------------------------------

オ 単元の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	1	<p>【学習の見通しの確認】</p> <p>○単語「夢」のイメージを書く。</p> <p>○和歌のイメージを記述し、共有する。</p> <p>○3首の和歌を2パターンに並べたものの比較を通して、和歌のイメージの変化を記述し、共有する。</p> <p>○「学びのプラン」に振り返りを記述する。</p>	○			<p>[知識・技能] ①</p> <p>「記述の分析」<u>知識・技能シート</u></p> <p>次の2点の記述によって確認する(2点の記述があればB)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2パターンのイメージの違い ・2パターンの構成・展開の説明
2	2 3	<p>○想定する読み手を考え、どのような関心を持たせるような構成にするかを構想する。</p> <p>○自分が考える構成・展開になるように、短歌を選び、配列する。</p> <p>○4～5人グループで構成・展開について発表する。聞いている人はアドバイスを書く。</p> <p>○アドバイスを受け、構成・展開を練り直し、どのような関心を得るようにしたか、どのように構成や展開を工夫したかをそれぞれ書く。</p> <p>○第2次の最後に、「学びのプラン」に振り返りを記述する。</p>		○		<p>[思考・判断・表現] ①</p> <p>「記述の分析」<u>思考・判断・表現シート</u></p> <p>次の2点の記述によって確認する(2点の記述があればB)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関心を得るための具体的内容 ・具体的な構成や展開の工夫の説明
3	4	<p>○ワールドカフェ形式を用い、4～5人グループで、最終的に決定した構成について発表をし、「読み手の関心が得られるよう」「構成や展開を工夫」しているもの一つ選ぶ。</p> <p>○選ばれた人は発表者としてグループに残り、それ以外の人他グループに移動し、それぞれのグループで選ばれた人の発表を聞く。</p> <p>○移動した人は元のグループに戻り、他のグループの「読み手の関心が得られるよう」になされた「構成や展開を工夫」を説明する。</p> <p>○「学びのプラン」に振り返りを記述する。</p>			○	<p>[主体的に学習に取り組む態度] ①</p> <p>「記述の分析」<u>各ワークシート</u></p> <p>・第1次で用いた「知識・技能シート」、第2次で用いた「思考・判断・表現シート」の記述を確認する(記述があればB)。</p> <p>・補完として、各次の「学びのプラン」の振り返りにおいて、粘り強さ・自己調整をしようとしているか確認する。</p>

カ 授業実践例 (4時間目/4時間)

学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
<p>1 ワールドカフェの手順等を確認する。(5分)</p> <p>2 グループで共有していく。(20分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4～5人のグループになり、まず司会者を決める。それから順番に発表していく。 <p>題：「読み手の関心を得られるように、構成や展開を最もよく工夫しているアンソロジーを選ぼう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表内容は次のa～dとする。発表後、発表者は質問を受け付ける。 <ul style="list-style-type: none"> a どのような読み手を想定したか。 b 選んだ歌、作ったアンソロジーの構成・展開。 c 読み手のどのような関心を得るようにしたか。 d 関心を得るために構成や展開をどのように工夫したか。 ・発表を聞いている人は、色違いのマジックでそれぞれ思ったこと等を模造紙に書き込む。 ・発表が終了したら、グループの中で「読み手の関心を得られるように、構成や展開を最もよく工夫しているアンソロジー」を選ぶ。 <p>3 他のグループの発表を聞く。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・席を移動し、それぞれのグループで選ばれたアンソロジーの発表を聞きに行く。(2で選ばれたアンソロジーの作者は、席に残って発表する。) ・発表者は、他のグループから来た人に2と同じように説明し、質問を受け付ける。 ・発表を聞いている人は、マジックで思ったことを模造紙に書き込みながら発表を聞く。(模造紙に書いた内容は写真を撮って4で活用する。) ・発表終了後、自分のグループに戻る。 <p>4 元のグループに戻り、情報を共有する。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが他のグループで聞いた発表内容を自分のグループで報告し合う。(2で撮った写真などを活用しながら報告する。) ・報告を聞いている人は、有効な工夫などについてメモをしながら報告を聞く。 <p>5 「学びのプラン」に振り返りを記述する。(5分)</p>	<p>[主体的に学習に取り組む態度] ①</p> <p>「記述の点検」各ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1次で用いた「知識・技能シート」の「手順⑥」、第2次で用いた「思考・判断・表現シート」の(②)、④、⑥、⑨を記述している。 ・(補完)各次の「学びのプラン」の振り返りにおいて、粘り強さ・自己調整をしようとしている。

研究実施校：神奈川県立生田東高等学校(全日制)
 実施日：令和5年10月4日(水)
 授業担当者：古川 光太郎 教諭

(2) 「指導と評価の一体化」の視点を踏まえた主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導と評価のポイント

ア 単元の目標・評価規準

単元の目標は、「言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解できる。〔知識及び技能〕(1)ア」、「読み手の関心を得られるよう、文章の構成や展開を工夫できる。〔思考力、判断力、表現力〕A(1)イ」を組み合わせることによって作成した。特に、〔思考・判断・表現〕では、学習過程の「構成の検討」における「書くこと」の領域の指導事項を、小・中学校の義務教育段階、「現代の国語」、「言語文化」、「論理国語」と比較し系統性を踏まえたうえで、「文学国語」においては「読み手の関心を得られる」部分が特徴であることに注目した。以上のことを踏まえ評価規準を設定した。

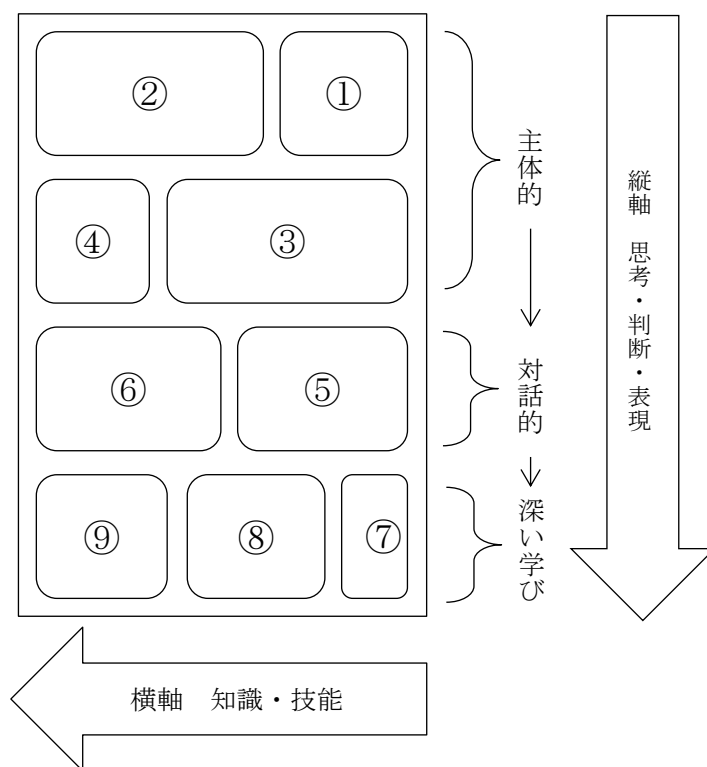
イ 指導と評価の一体化

指導と評価の一体化を目指して、「学びのプラン」(※1)を単元の始めに生徒に提示した。学習の見通しと振り返りを担保するとともに、身に付けたい資質・能力の提示、学習活動、評価規準及びその方

法を生徒が視覚的に把握できるようにした。また、第1次で「知識・技能」、第2次で「思考・判断・表現」、第3次で「主体的に学習に取り組む態度」を見取る単元構成とした。それぞれの「次」で一つ評価規準を設定することで、指導と評価を明確化させ、授業を通してどのような力を身に付けることができるのか生徒が認識できるようにしている。

ウ 主体的・対話的で深い学びの実現（「思考・判断・表現」）

「思考・判断・表現」を見取る第2次では、「思考・判断・表現シート」の構成を工夫することによって、主体的・対話的で深い学びを視覚的に分かりやすく示すとともに、生徒に自身の学びの深化過程をメタ認知させられるようにした(図2)。「思考・判断・表現シート」は「学習過程の視覚化」、「評価規準・評価方法の明確化」、「学習活動の明確化」に留意して作成し、学習活動が「個人作業」、「対話的作業」、さらに「個人作業」の順に記載されるように配慮した。これにより、1枚のシートで「主体的」「対話的」「深い学び」それぞれについて俯瞰できる。生徒の記載した部分が、「学びのプラン」で示した「評価規準・評価方法」に対応するようにできているので、生徒が評価について意識的に確認することができる。また、この工夫により、教員による評価も1枚のシートで行うことができる。



設問	
①	具体的な読み手を想定しましょう。
②	どのような構成や展開にしていくと関心が得られるようになると考えますか。(想定段階)
③	「①」「②」を踏まえて、短歌を五首選び、並べてみましょう。〔条件〕 a 3案以上／b 短歌は番号で記す／c 読み手「①」に対してよい構成になっている案に「○」／d 一番読ませたい短歌(歌謡曲でいうと聞かせドコロ)の番号を○で囲む。
④	「③c」でよい構成を選ぶときに読み手の「①」を想定してどのようなところを工夫したか、簡単に説明してみましょう。
⑤	「③c」を選んだ「○案」を、実際の歌で別紙に書きます。その別紙を元に、「④」の説明をして、「③」の「○案」について、意見やアドバイスをもらいましょう。
⑥	アドバイスを受けて、どのようなところをポイントに構成を考えますか。
⑦	《修正案》別紙を朱書きで修正し、ここでは歌を番号で並べる。
⑧	読み手の「①」を踏まえて「⑦」の《修正案》の構成を説明しましょう。
⑨	読み手の「①」がどのような関心を得られるか、またその関心を得るための構成や展開をどのように工夫しましたか。修正ポイント等を説明しましょう。

図2 「思考・判断・表現シート」の構成

図2 「思考・判断・表現シート」は総合教育センターWebページにてダウンロードできます。

エ 汎用性

本単元では、提示された短歌群から数首を選んで配列し、設定した読み手の関心を得るようなアンソ

ロジーを作成する活動を行った。この活動を採用することで、短歌の創作や作文などの「書く」活動を伴わずに、「書くこと」の領域の中の「構成の検討」を指導していくことができるようにした。これには「書くこと」の領域をどの学校でも実践しやすくするというねらいが含まれている。本単元では既存の短歌を数種選択させ、並び替えを行わせることによって「読み手の関心」の獲得、「構成や展開」の工夫に焦点を当てて評価するものとしている。今回は短歌を使用した。和歌や俳諧・俳句などの韻文を生徒の状況に合わせて教材として設定し、任意に単元を構成することができる。

また、研究授業を実施した学校はICT利活用授業研究推進校であるため、ロイロノートを使用して授業を展開したが、同様の授業はプリント等を使用しても実施可能である。

汎用性とは実践のしやすさであり、誰でも実践できる授業は、今年度の研究テーマである「組織的な授業改善」に直結すると考える。

オ 研究授業について

研究授業では第3次を行い、[主体的に学習に取り組む態度]を見取った。グループ活動(ワールドカフェ)においては、各グループの机に模造紙を広げ、発表を聞きながら各自マジックでメモなどを自由に書き込んだ。このことにより、生徒は自身の作品がどのように受け入れられたのかを知ることができた。

課題としては、自身の作品の改善案を発表する際に、作品の説明に集中するあまり、どのような「読み手」を想定したかを十分に説明できていない場面があったことが挙げられる。発表する生徒は思考していることがあるのに、それを適切に表現できず、もどかしい思いをしているようだった。自分がどのような「読み手」を想定したかについてより明確に提示できるように、他の生徒に見せる資料に記入する枠を設けるなどの工夫が考えられる。

授業後に生徒インタビューを行った。生徒から「代表を選ぶ時に、誰に宛てたのか(読み手)具体的で分かりやすい人を選んだ」という声が聞かれた。このことから、「読み手の関心」の獲得、「構成や展開」の工夫という本単元で重視した点が一定程度実現できたものと考えられる。さらに、「もっと時間をかけて、自分の理想に合う短歌を探したい」や「発表の時に、自分の思いを伝えきれないもどかしさを感じた」などの声が聞かれたことから、生徒の学びを深めようという姿勢が見て取れ、今後の学びにつながるものと考えられる。

生徒からは、「自分と違う考えを取り入れて変える工夫をしてみたい」、「自分は似ているものでまとめたが季節や時間を工夫している人がいてすごかった」など、他者との対話を通して、自身の学びの実感を得ている様子が見られた。

なお、[主体的に学習に取り組む態度]は[知識・技能]と[思考・判断・表現]の両シートから評価する。また、「学びのプラン」の振り返り記述を補完として評価していく。

※1：参考文献

高木展郎 2021 『高等学校国語 カリキュラム・マネジメントが機能する学習評価』三省堂

高木展郎編著 2017 『平成29年改訂 中学校教育課程実践講座 国語』ぎょうせい

田中保樹・三藤敏樹・高木展郎 2020 『資質・能力を育成する学習評価』東洋館出版社

三藤敏樹・山内裕介・高木展郎 2021 『資質・能力を育成する授業づくりと学習評価 中学校国語』東洋館出版社

①具体的な読み手を想定し
よう。

②どのような構成や展開にして
いくと関心が得られるようにな
ると考えますか。(想定段階)

③「①」「②」を踏まえて、短歌を
五首選び、並べてみましょう。
〔条件〕 a 3案以上／b 短歌は
番号で記す／c 読み手「①」に対
して良い構成になっている案に
「○」／d 一 番読ませたい短歌
(歌謡曲でいうと聞かせド「ロ」の
番号を○で囲む。
〔例〕案1 12358
○案2 312⑧5

④「③」cで良い構成を選ぶとき
に、読み手の「①」を想定してど
のようなところを工夫したか、簡単
に説明してみましょう。

⑤「③」cで選んだ「○案」を、
実際の歌で別紙に書きます。そ
の別紙を元に、「④」の説明をし
て、「③」の「○案」について、意見
やアドバイスをもらいましょ
う。

⑥アドバイスを受けて、どのよう
なところをポイントに構成を考
えますか。

⑦《修正案》別紙を朱書きで修正
し、ここでは歌を番号で並べる。

⑧読み手の「①」を踏まえて「⑦」
の《修正案》の構成を説明しまし
よう。

⑨読み手の「①」がどのような関
心を得られるか、またその関心を
得るための構成や展開をどのよ
うに工夫しましたか。修正ポイン
ト等を説明しましょう。

縦軸 思考・判断・表現

主体的

対話的

深い学び

横軸 知識・技能

①具体的な読み手を想定し
よう。

(例)
片思いをしている人

②どのような構成や展開にして
いくと関心が得られるようにな
ると考えますか。(想定段階)

(例)

共感を呼ぶような、片思いを
している短歌からはじめて、
最後は片思いが成就する構成
にすると、片思いが解決する
ことになり、関心を得られ
る。

③「①」「②」を踏まえて、短歌を
五首選び、並べてみましょう。

〔条件〕 a 3案以上／b 短歌は
番号で記す／c 読み手「①」に対
して良い構成になっている案に
「○」／d 一番読ませたい短歌
(歌謡曲でいうと聞かせドコロ)の
番号を○で囲む。

〔例〕案1 12358
○案2 312⑧5

1案 57312
2案 86421
○3案 1953⑦
4案 53961

④「③」cで良い構成を選ぶとき
に、読み手の「①」を想定してど
のようなところを工夫したか、簡単
に説明してみましょう。

(例)

共感を呼ぶような、片思いをし
ている短歌からはじめるのでは
なく、成就する短歌からはじめ
て、成就する手前の短歌で終わ
らせることによって、読み手に
最後を想像させる構成にした。

⑤「③」cで選んだ「○案」を、
実際の歌で別紙に書きます。そ
の別紙を元に、「④」の説明をし
て、「③」の「○案」について、意見
やアドバイスをもらいましょ
う。

(例) 田中…構成を起承転結
「9・53・①・7」のイメー
ジにするといとおもう。
高橋…最後は成就する方が、読
み手が安心するから、最後には
片思いが解消する・成就する短
歌7にするとういと思う。

鈴木…成就する短歌7を最後に
した方が、はじめに置くよりも
読み手は読もうと思う。

⑥アドバイスを受けて、どのよう
なところをポイントに構成を考
えますか。

(例)

起承転結を踏まえて、転と結
の部分を考え直す。

評価規準 見取り箇所
①読み手の関心
②構成・展開の工夫

⑦《修正案》別紙を朱書きで修正
し、ここでは歌を番号で並べる。

(例) ○5案 1539⑦
6案 53617

⑧読み手の「①」を踏まえて「⑦」
の《修正案》の構成を説明しまし
よう。

(例) 「片思いをしている人」と
いった読み手に対して、短歌1
でもうすぐ成就という短歌を配
置して、
短歌5で片思いの発端である出
逢い、短歌3で気持ちがある形
にして、想いを変え転では短
歌9を配置して別の道を歩くよ
うに見せて、結で成就の短歌7
をおいて、二人が同じ道を歩く
構成にした。

⑨読み手の「①」がどのような関
心を得られるか、またその関心を
得るための構成や展開をどのよ
うに工夫しましたか。修正ポイン
ト等を説明しましょう。

(例)

時系列的な構成から、アドバイスを
受けて起承転結の構成にし、最後は
片思いが成就するように修正した。
しかし、そのまま起承転結にする
のではなく、はじめに成就を抱かせる
短歌1を置くことで、読み手に成就
への期待感を持たせるように修正し
た。

②・④・⑥・⑨が「ねばりづよく」「自己調整」③を受けて④、⑥を受けて⑦、⑨で説明

思考の変容過程が視覚的にみられる。

